



# 平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 エスペック株式会社  
 コード番号 6859 URL <http://www.espec.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレート統括本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 石田 雅昭  
 (氏名) 大島 敬二

TEL 06-6358-4741

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	8,013	8.0	310	—	339	—	185	—
29年3月期第1四半期	7,419	17.3	△55	—	△161	—	△182	—

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 140百万円 (—%) 29年3月期第1四半期 △735百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	8.09	—
29年3月期第1四半期	△8.03	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	48,206	36,644	76.0	1,603.07
29年3月期	49,044	37,049	75.5	1,621.00

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 36,644百万円 29年3月期 37,049百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	12.00	—	24.00	36.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	15.00	—	35.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

30年3月期(予想)中間配当の内訳 普通配当 14円00銭 記念配当 1円00銭  
 " 期末配当の内訳 普通配当 34円00銭 記念配当 1円00銭

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	17,500	1.4	1,200	18.9	1,250	50.0	850	65.9	37.19
通期	40,000	1.2	3,700	14.1	3,800	19.8	2,700	20.9	118.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注)詳細は、添付資料P.9「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	23,781,394 株	29年3月期	23,781,394 株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	922,724 株	29年3月期	925,324 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	22,858,670 株	29年3月期1Q	22,783,847 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想・配当等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく変動する可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、世界経済の回復を背景に輸出が堅調に推移するとともに、企業の収益改善や人手不足への対応などを背景に設備投資も拡大基調となりました。一方で米国の通商政策や不安定な世界情勢など先行き不透明な状況も継続いたしました。

当社の主要顧客におきましては、自動車関連メーカーでは積極的な投資が継続するとともに、エレクトロニクス関連メーカーの投資も堅調に推移いたしました。

こうした中、当社はエスベックグループのシナジーにより海外市場での販売拡大に取り組むとともに、エコカーや自動運転技術の開発が加速する自動車や、医薬品を中心とするライフ分野など成長・戦略市場をターゲットとした事業領域の拡大に取り組んでまいりました。

こうした結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、前年同四半期連結累計期間比で受注高は9.5%増加し10,526百万円、売上高は8.0%増加し8,013百万円となりました。利益面につきましては、増収と原価率の改善により黒字へ転換し、営業利益は310百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は185百万円となりました。

	前第1四半期連結累計期間 (29年3月期) (百万円)	当第1四半期連結累計期間 (30年3月期) (百万円)	増減率 (%)
受注高	9,615	10,526	9.5
売上高	7,419	8,013	8.0
営業利益又は営業損失 (△)	△55	310	—
経常利益又は経常損失 (△)	△161	339	—
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は四半期純損失 (△)	△182	185	—

セグメント別の業績

当第1四半期連結累計期間のセグメント別業績

	受注高 (百万円)	売上高 (百万円)	営業利益又は 営業損失 (△) (百万円)
装 置 事 業	8,886	6,574	392
サ ー ビ ス 事 業	1,486	1,252	△48
そ の 他 事 業	214	227	△34
連 結 消 去	△59	△39	1
計	10,526	8,013	310

<装置事業>

環境試験器につきましては、国内市場では、汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに堅調に推移いたしました。海外市場では、欧州、台湾の売上高は前年同四半期連結累計期間比で減少したものの、中国、米国、東南アジア、韓国は増加いたしました。環境試験器全体では受注高・売上高ともに前年同四半期連結累計期間比で増加いたしました。

エナジーデバイス装置につきましては、大型案件の受注があった前年同四半期連結累計期間比で受注高は減少いたしました。売上高は前期末受注残の売上計上により増加いたしました。

半導体関連装置につきましては、スマートフォンや自動車関連メーカーからの受注が堅調に推移し受注高は前年同四半期連結累計期間比で増加いたしました。売上高は減少いたしました。

こうした結果、装置事業全体では、前年同四半期連結累計期間比で受注高は14.3%増加し8,886百万円、売上高は8.4%増加し6,574百万円となりました。利益面につきましては、増収と原価率の改善により392百万円の営業利益となりました。

	前第1四半期連結累計期間 (29年3月期) (百万円)	当第1四半期連結累計期間 (30年3月期) (百万円)	増減率 (%)
受注高	7,775	8,886	14.3
売上高	6,063	6,574	8.4
営業利益又は営業損失 (△)	△35	392	—

<サービス事業>

アフターサービス・エンジニアリングにつきましては、受注高は前年同四半期連結累計期間並みとなり、売上高は前年同四半期連結累計期間比で増加いたしました。

受託試験・レンタルにつきましては、受注高は前年同四半期連結累計期間を上回りましたが、売上高は好調であった前年同四半期連結累計期間の水準には及ばず減少いたしました。

こうした結果、サービス事業全体では、前年同四半期連結累計期間比で受注高は0.6%減少し1,486百万円、売上高は4.9%増加し1,252百万円となりました。利益面につきましては、原価率の悪化などにより48百万円の営業損失となりました。

	前第1四半期連結累計期間 (29年3月期) (百万円)	当第1四半期連結累計期間 (30年3月期) (百万円)	増減率 (%)
受注高	1,494	1,486	△0.6
売上高	1,193	1,252	4.9
営業利益又は営業損失 (△)	11	△48	—

<その他事業>

森づくり・水辺づくりが堅調に推移いたしました。植物工場事業が低迷し、前年同四半期連結累計期間比で受注高は46.1%減少し214百万円、売上高は5.6%増加し227百万円、利益面につきましては34百万円の営業損失となりました。

	前第1四半期連結累計期間 (29年3月期) (百万円)	当第1四半期連結累計期間 (30年3月期) (百万円)	増減率 (%)
受注高	397	214	△46.1
売上高	215	227	5.6
営業損失 (△)	△31	△34	—

※ 当社グループにおいては、お客さまの予算執行の関係により、契約上の納期が第2・第4四半期連結会計期間に集中する傾向が強いため、四半期別の売上高をベースとする当社グループの業績には著しい季節的変動があります。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は48,206百万円で、前連結会計年度末と比べ838百万円の減少となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加571百万円、受取手形及び売掛金の減少3,207百万円、電子記録債権の増加384百万円、仕掛品等のたな卸資産の増加1,162百万円などによるものであります。また、負債は11,561百万円で前連結会計年度末と比べ432百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少147百万円、未払法人税等の減少209百万円などによるものであります。純資産は36,644百万円で前連結会計年度末と比べ405百万円の減少となり、その主な要因は利益剰余金の減少363百万円などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間および通期の連結業績につきましては、現時点において業績計画を修正すべき状況が発現していないことから、当初の業績予想を修正しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,654	10,226
受取手形及び売掛金	15,123	11,915
電子記録債権	1,564	1,948
有価証券	1,901	1,901
商品及び製品	623	1,105
仕掛品	1,826	2,462
原材料及び貯蔵品	1,862	1,906
その他	2,160	2,312
貸倒引当金	△21	△16
流動資産合計	34,694	33,762
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,584	3,551
土地	4,455	4,449
その他(純額)	1,787	1,718
有形固定資産合計	9,827	9,720
無形固定資産		
のれん	614	575
その他	346	320
無形固定資産合計	961	896
投資その他の資産	3,560	3,827
固定資産合計	14,349	14,443
資産合計	49,044	48,206
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,591	2,444
電子記録債務	3,694	3,627
未払法人税等	382	172
賞与引当金	383	601
役員賞与引当金	13	—
製品保証引当金	255	238
受注損失引当金	1	9
資産除去債務	123	123
その他	2,817	2,533
流動負債合計	10,263	9,750
固定負債		
退職給付に係る負債	53	53
役員退職慰労引当金	12	12
資産除去債務	13	14
その他	1,651	1,730
固定負債合計	1,731	1,811
負債合計	11,994	11,561

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,895	6,895
資本剰余金	6,914	6,914
利益剰余金	23,873	23,510
自己株式	△994	△991
株主資本合計	36,689	36,329
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,079	1,267
土地再評価差額金	△661	△661
為替換算調整勘定	120	△121
退職給付に係る調整累計額	△179	△170
その他の包括利益累計額合計	359	314
純資産合計	37,049	36,644
負債純資産合計	49,044	48,206

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	7,419	8,013
売上原価	5,073	5,226
売上総利益	2,346	2,787
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	676	721
賞与引当金繰入額	61	64
製品保証引当金繰入額	45	40
のれん償却額	16	16
その他	1,601	1,633
販売費及び一般管理費合計	2,401	2,477
営業利益又は営業損失(△)	△55	310
営業外収益		
受取利息	4	7
受取配当金	27	29
その他	23	28
営業外収益合計	54	65
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	155	23
支払手数料	2	2
その他	3	10
営業外費用合計	161	36
経常利益又は経常損失(△)	△161	339
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	0	1
投資有価証券評価損	8	—
特別損失合計	8	1
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△169	338
法人税、住民税及び事業税	13	153
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△182	185
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△182	185

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△182	185
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△159	187
為替換算調整勘定	△404	△242
退職給付に係る調整額	11	9
その他の包括利益合計	△552	△44
四半期包括利益	△735	140
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△735	140

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	装置事業	サービス 事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	6,061	1,143	214	7,419	—	7,419
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	49	0	52	△52	—
計	6,063	1,193	215	7,471	△52	7,419
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△35	11	△31	△55	0	△55

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な変動はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	装置事業	サービス 事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	6,573	1,213	226	8,013	—	8,013
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	38	0	39	△39	—
計	6,574	1,252	227	8,053	△39	8,013
セグメント利益又は セグメント損失(△)	392	△48	△34	309	1	310

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な変動はありません。